

研究機関：広島大学

研究課題名	高位脛骨骨きり術が内側半月板逸脱に及ぼす経時的影響
研究責任者名	広島大学大学院医学系科学研究科 整形外科学 教授 安達 伸生
研究期間	2019年 4月 22日(倫理委員会承認後)～ 2024年 3月 31日
対象者	本研究の文書による同意を行って参加された患者および2016年4月1日～2019年3月1日の間に、広島大学病院の整形外科診療科で外側ウェッジインソールによる治療を受けた患者。
意義・目的	半月板逸脱減少の効果については、外側ウェッジインソールにて軽減するということが明らかになっていますが、同じメカニズムでより強力な矯正作用がある、高位脛骨骨きり術における半月板逸脱量減少についてはまだ解明されていません。今回、高位脛骨骨きり術における半月板逸脱減少の効果を外側ウェッジインソールによる治療と比較することで、より有効な半月板逸脱減少の治療を明らかにできる可能性があるため、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は基本情報（身長、体重、性別、年齢）、診療情報（超音波検査、痛みアンケート、およびレントゲン画像結果です。（個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ）
共同研究機関	広島大学単独で行い、研究分担者の石井陽介が解析します。
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医学系科学研究科 整形外科学 教授 安達 伸生
個人情報の保護について	調査内容につきましては「プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのリスクをお掛けするものではありません。
定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのリスクをお掛けするものではありません。	